



「具合のよくないうとまではありませんが」。県立大地域ケア開発研究所教授で、看護師の神崎初美(46)は、机を挟んで対面した顔なじみの女性に笑顔で問いかけた。

県立大明石キャンパス(明石市)などで月1回開かれる「まちの保健室」。神崎は県看護協会から派遣されている看護師や保健師がボランティアで地域住民の健康相談に応じて、血圧や骨密度などを測定する。

「まちの保健室」は今年では県内約50カ所で定期的に開かれ、場所は道の駅や郵便局、保育所など多岐にわたる。健康関連イベントで臨時に開く「出前隊」や、高齢者の自宅を見回る「キャンパンドクター」もチームを組んで統括している。

神崎は、県立大教授の立場から地域住民との接し方などを助言するなど、この活動の全展開をサポートする役割を担っている。「住民が自分の体調を自分で管理できるようにして

県立大地域ケア開発研究所教授 神崎初美さん(46) ④



したい」。神崎は狙いをきく語る。

活動は、阪神大震災の教訓から生まれた。仮設住宅などで高齢者の孤独死や震災関連死が社会問題化。県看護協会は「地域にも学校の保健室のような住民が健康をチェックする場所が必要」と指摘、平成13年に県内でスタート。以

降、全国にも広まっている。神崎が看護師の道を歩み始めたのは「手に職を持つなまめい」という母の勧めがきっかけだった。昭和59年、大阪府立公衆衛生専門学校看護科

「まちの保健室」は看護の原点

(現大阪府立大看護学部)に入学すると、看護の世界にめり込んだ。「人の頭を洗ってあげたり、脈をとってあげたり、ほかの学校で学ばないことが新鮮な場だった」と

いう。卒業後、大阪府立急性期・総合医療センターで約7年半、救急患者が搬送される集中治療室(ICU)で、修羅場を経験した。「命を救う

看護師」にやりがいを感じたが、当時の看護部長から「患者さんが回復する姿をみた」とないでしゅう」と勧められ、同センターの整形外科に異動した。今度は2年9カ

ひょうご

かんざき・はつみ 大阪市出身。昭和62年、大阪府立公衆衛生専門学校看護科(現大阪府立大看護学部)卒。府立急性期・総合医療センター勤務、神戸市看護大助手などを経て、平成22年4月から県立大地域ケア開発研究所教授。キャンパスのある明石市を中心に、住民の健康を管理する「まちの保健室」や、学校での「減災教育」などを推進。東日本大震災では、宮城県石巻市の避難所などで支援にあたった。17年、大阪大大学院(保健学専攻)博士課程修了。

月、リウマチなどの病を持つ患者に向き合った。

「医師は病気の診断と治療に取り組みが、看護師は患者の日常の世話から容体の観察を通して心と体に接する。医療の核になる職業」

そう信じて力を注ぐのが、看護学校を卒業した新人看護師らが病院で受ける「卒業後院内教育研修プログラム」の中に「まちの保健室」を取り入れる活動で、県看護協会が平成21年から進めている。

看護師は過酷な医療現場で働き、ミスが許されない緊張感や責任などで離職する率が高い。「まちの保健室」は地域住民と直接触れ合い、看護がおもしろい」と再発見してもらった。自分ができること、看護をしたいのかを思い出し、やりがいを感じた。

そんな神崎が看護のあり方を見つめ直す機会になったのが、東日本大震災だった。

(文中敬称略)

この人あり

東日本大震災直後、宮城県石巻市の市立石巻中学校で開設された避難所は1千人近い被災者であふれていた。県看護協会から派遣された県立大地域ケア開発研究所教授、神崎初美(46)は、避難所のスタッフから「ここには医療班がないんです」と聞かされ、決意を固めた。

「被災者の健康を私たちが守る」

校舎2階の特別教室を借りて臨時の診療所を置き、同じ派遣チームの医師とともに毎日約100人の被災者の診察と看護を続けた。風邪による発熱、せきやノロウイルス感染が目立ち、高血圧や糖尿病の持病を抱える被災者の体調は予断を許さなかった。

リウマチ看護を専門とする神崎は、リウマチ患者を見分けることができた。近づいて「痛みはないですか。体育館での寝泊まりはつらくないですか」と声をかけた。どの人も「大丈夫」と答えたが、必死で耐えている様子が伝わった。

チームは3月18〜23日、石巻市や仙台市、松島町など宮

県立大地域ケア開発研究所教授 神崎初美さん(46) ㊦



東日本大震災の被災地の避難所で、被災者の看護に当たる神崎初美さん(右)＝神崎さん提供

回。現地の医師や看護師の多くが被災しており、医療に取り組む人材が不足していた。「災害に備え、住民が普段から簡単な看護や介護の方法を

身に着けることの大切さを届けた」という。被災地のダメージは想像以上に深刻だった。5月6日、10日に再び石巻中などの避難所を訪れた神崎らは愕然とす

る。被災者の食事がいまだにパンと牛乳、魚肉ソーセージ、野菜ジュース程度しかなかったのだ。「それでも被災者は我慢している。その光景に寒々

としたものを思ふた」。後ろ髪を引かれる思いで被災地から戻り、伊丹(大阪)空港に降り立ったときにむなしさに襲われた。短文投稿サイト「ツイッター」で、「だれか石巻中で炊き出しをしてくれませんか」と何度も書いた。

効果は大きかった。被災地の現実を知った神崎の「叫び」を読んだ東京都内のイタリア料理店経営者がまもなく、ほかのレストランの協力を募り、「美味しい食べものを届け隊」を結成した。被災地で月数回、レストランならではのメニューによる炊き出しを始めたのだ。ほかにもマッサージ師やピアニストラ、神崎が「顔も見ることがない人」が被災地支援に立ち上がってくれた。

また、被災地の医療態勢の整備も少しずつ前進した。6月中旬に石巻中を訪れた際には、衛生面で不安があるものの、現地の看護師らがてきぱきと被災者の健康チェックを進めていた。学校の教員らにも笑顔が戻っていた。

「みんなが茫然自失としていた震災直後を思うと、感動がこみ上げてきた」

(文中敬称略)

避難所ケア、"人の輪"で前進

ひよこうべ

この人あり

東日本大震災の被災者の健康チェックなどに奔走する県立大地域ケア開発研究所教授で看護師の神崎初美(46)。その神崎が災害看護の経験を踏まえて、もう一つの活動の柱にしているのが、学校で災害への備えを教える「減災教育」だ。

東日本大震災では、岩手県釜石市の小中学生計約3千人のほぼ全員が津波から避難できた「釜石の奇跡」があった一方、宮城県石巻市のある小学校では多くの児童が逃げ遅れ、津波の犠牲になった。事前の防災意識の差が明暗を分けたため、防災・減災に向けた学校の取り組みの重要性が見直された。

神崎は以前から「災害が屋間に発生した場合、家族がばらばらの場所にいることが多い。日ごろから地域の事情を知り、いざというときには弱い立場の高齢者や子供の力になれるのは中学生ではないか」と考えていた。

そこでキャンパスのある明石市と連携して市内の中学校に働きかけ、「減災教育」授

県立大地域ケア開発研究所教授 神崎初美さん(46) ①

海岸部にあり、地震や津波、台風に弱いとみられる市立衣川中学校を選定。平成19年度から毎年数日間かけ、神崎らが講師となり、授業で「災害が起きたとき、あなたはど

うする」と問いかけている。毎年、試行錯誤で練り直す。心臓マッサージや自動体外式除細動器(AED)の使い方など応急手当ての講習だけでなく、生徒らが学校周辺を歩いて避難場所などのマップづくりをしたり、避難所の被

験者や要介護者への接し方を考えたりしてきた。22年度には阪神大震災の教訓をもとにカード式の「避難所体験ツール」を開発した。「物資が不足」「病気になる」「人間関係のトラブル発

生」などと置かれたカードを順番に引いて避難所生活を疑似体験し、「食、物をあける」「ボランティアをする」などのカードを相手に渡せば得点になる。授業を受けた生徒からは「楽しかった。でも実際の避難所はもっと大変だろうと考えた」という声が多かった。あえてゲーム形式を選んだ理由はそこにあった。「受け身の聞き伝えやテレビ映像だけではなく、災害への想像力や防災の意識づけが必要。授業でそのきっかけをつかんでほしい」



明石市立衣川中学校で生徒に応急手当てを指導する神崎さん(中央)＝神崎さん提供

昨年10月、衣川中での授業では東日本大震災の被災地で経験したことを伝えた。「被害が広範囲にわたり、震災から数カ月たっても食料が十分に届かない避難所があった」などと、阪神大震災と大きく状況が違ったことを伝えた。「授業で学んだことを家族と話し合ってくれば、親にも災害に関心を持ってもらえる」と神崎。災害に強い地域づくりを目指す看護師の挑戦が続く。(文中敬称略、この項は牛島要平が担当しました)

中学で「減災授業」 命守る備え

ひょうご

「石舞台」の造り方再現

巨石を積み上げた石室で知られる石舞台古墳(奈良県明日香村)の築造の様子などを再現したコンピュータグラフィックス(CG)映像を、関西大と東京大、明日香村などが制作し29日、公開した。

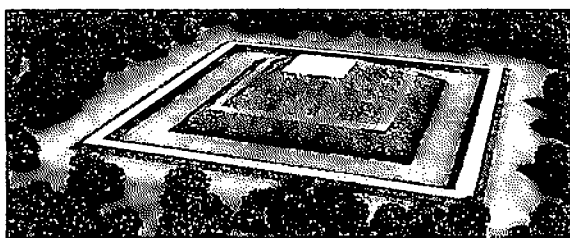
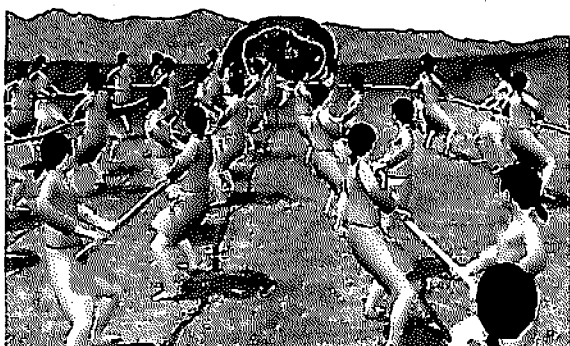
7世紀前半につくられたとみられる石舞台古墳は、最大約80メートルの巨石を30個以上積み上げた総重量約2300トンの巨大な横穴式石室を持つ古墳。石室は全長19メートル、高さ4・7メートル、国内最大クラスとされる。

CG制作では、関西大文学部の米田文孝教授(考古学)らによる歴史考証をもとに、東京大学大学院情報学環の池内克史教授らが約10分間の映像にまとめた。

CGで再現した石舞台古墳の築造の様子。多くの人が巨大な天井石(中央奥)を運んでいる。CGで再現された奈良県明日香村の石舞台古墳。明日香村・関西大提供

公開された映像は、解説などが書かれた副読本とともに近畿7府県の小学校約3千校に配布される予定。米田教授は「築造当時の石舞台の姿をイメージしてもうきっかけにしている」と話している。

関大、明日香村などCG制作



勝者が先



と1勝とした謝依旻女流 東大阪市の大阪商業大学

で行われ、午後6時58分、335手までで白番の謝女流名人が15目半勝ちした。残り時間は両者ともに1分。第2局は3月14日、京都市上京区の平安女学院「有栖館」で行われる。握って先番となった向井五段は、上辺から中央まで

税高額滞納者の個人情報流出か

奈良市が告発へ

奈良市税の高額滞納者の個人情報などが外部に流出した可能性が強まったとして、同市は29日、地方公務員法(守秘義務)違反罪で近く奈良県警奈良署に告発すると発表した。市によると、平成22年度の市税高額滞納者の上位20位の個人名や企業名、延滞金額などが記された文書が2月上旬、市議会の会派控

え室などに郵送された。市は、滞納整理課に21年度末以降、在籍した現職職員を事情聴取したが、流出ルートを特定できなかった。一方、同課には、県警が28日に業務上横領容疑で逮捕した元総務部参事の土井義文容疑者(59)と元債権整理課長補佐の西田芳光容疑者(59)ともに懲戒免職が在籍していたことがあると、両容疑者について、市は「事情聴取できていない」としており、容疑者不明のまま告発するという。

倉田・前池田市長が講 政治塾を来月開講



昨秋の大阪府知事選に出馬し、落選した前池田市長、倉田薫氏(63)が29日、地方政治家を目指す人を対象にした私塾「薫風政治塾」を4月に開講すると発表した。募集人数は15人程度。塾長の倉田氏のほか、政治家や有識者らが月2回のペースで2年間、講義などをする。倉田氏は「本気で『ローカル政治家』を目指す人のための塾。政治家の資質を上げる一助となれば」と説明。希望者は「これからの地方自治に対する私の思い」をテーマに4千字の論文を提出し、面接を経て選考される。入塾金2万円、年間受講料3万円。

「十段戦」は きょう開幕

左上隅から左辺にかけての帰趨が不明のまま、戦いは中央に広がり、混戦模様になった。謝女流名人が下辺に打った白178アテに、時間がないとなった向井五段は手を抜いて中央へ。これが「痛恨のミス」(石井九段)で、下辺がコウに。第50期十段戦五番勝負「第1局」が1日、大阪府東大阪市の大阪商業大学で行われる。井山裕太十段(22)に、張栩棋聖(32)が挑む。昨年とは立場を入れ替えてのシリーズ。持ち時間

万円を東電が賠償するよう、損害賠償紛争解決センターに和申し立てた。町弁護団によるは初めて。47人は福島、東京などする14~96歳の男女。

■庭野平和賞にグアテマラ平和運動家 庭野平和財団(理事長、庭野欽司郎・立正校成会参与)は29日、第29回庭野平和賞に、かつて内戦が続いたグアテマラで非暴力平和

運動に取り組んだ「連れあいを奪われた女性たちの会」元代表、ロサリーナ・トゥユク・ペラスケスさん(55)を選んだと発表した。贈呈式は5月10日に東京都内で行われ、賞金2万円と賞状などが贈られる。

あすからの天気

3月1日(木) 4日(日) 5日(月) 6日(火) 7日(水)